

## 第4回の議論 意見のポイント

- イベントは実行委員会主体で、行政が制約をかけないほうが面白いアイデアがでてくる。行政は場所や機材の確保、広報などで支援・参加。
- イベントは漠然としたテーマではなく、はっきりと趣旨を打ち出した方がよい。広報は興味をもたせる内容を工夫。
- イベント会場では地域活動に関心をもった人と、地域活動団体をつなぐ役割をもつ人が必要。
- 地縁組織（町会、自治会、老人クラブ等）とNPOなどの新しい地域活動グループとの折衷。お互いのよさを引き出し認め合いながらの連携が必要。
- ウェブを使うマッチングは速い、コストがかからない。
- ウェブサイトでのマッチングをボラセンや老人クラブなどへもつなげられれば広がる。
- 地縁組織やNPO等が連携して地域活動を盛り上げて、コーディネーションすることが東京都の役割。
- ITはNPOの発展に大きく貢献。効率性が大きなポイント。
- 東京は男性シニア、企業人に対してコーディネートしていくことがコツ、プロセスの議論を区市町村へフィードバックする。

- コーディネーターは能力の高さが求められる。マッチングさせる場合、相手のニーズとセキュリティをうまく合わせる事が大事。
- インターネットは、マッチングには有効な技術。ビジネスモデルもいろいろある。専門性の高いマッチングはコーディネーションが必要でも、軽易なものであればウェブで十分可能。
- コーディネーションは専門的にやると逆に広がらないのでは。地域で気楽にというスタンス。
- コーディネーターとはおせっかいやき。何とかしなきゃという人。
- 地域包括やボラセン、区、などいろんな知恵を寄せ集めて地域の課題に向って行く、サポートしていく。コーディネーターとはいろんな人が集まって連携して動いていく感じ。